



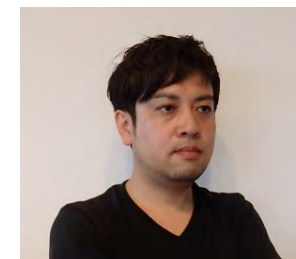
Bauhaus Project



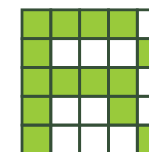
Architecture
Presentasion

architect
Kazunari Tabuchi

FANFARE



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を有する独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者9社における2017年度～2019年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ 2020年8月現在
※本調査結果は、定性的な調査・分析手法による推計である。







担当建築家

田淵 一成

Tabuchi Kazunari

株式会社 FANFARE@福岡県

幸せな住まいとは「住まい方 × 家」で表すことができます。住まい方によって、ささいなことが楽しいものになり、家の構成によって大きく日常が変化していきます。そして、この2つが掛け算のようにうまくかけ合わさることで、家族の暮らしは大きく豊かになります。それぞれの住まう人に合った、最高の家を一緒に手づくりしていきましょう。

Profile

1978年 鹿児島県生まれ

2001年 九州職業能力開発大学校建築施工システム技術科卒業

2001年 株式会社洋建築計画事務所

2012年 株式会社 FANFARE 入社

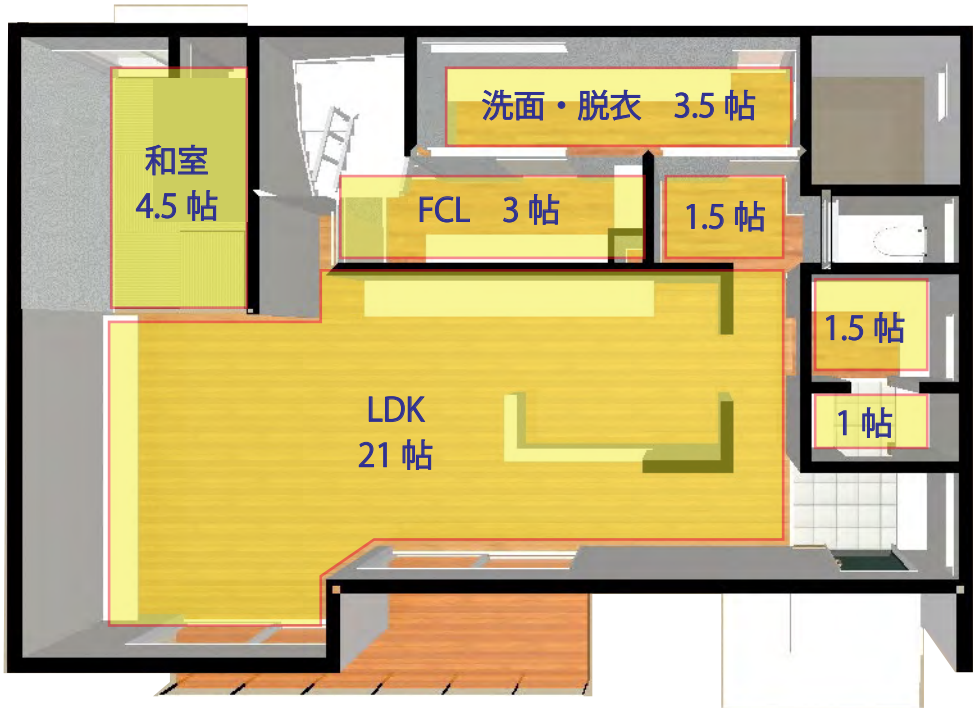
敷地面積 : 80.22 坪 (265.20 m²)

1階床面積 : 22.04 坪 (72.87 m²)

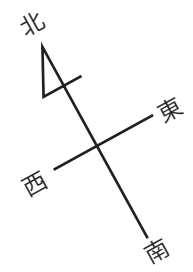
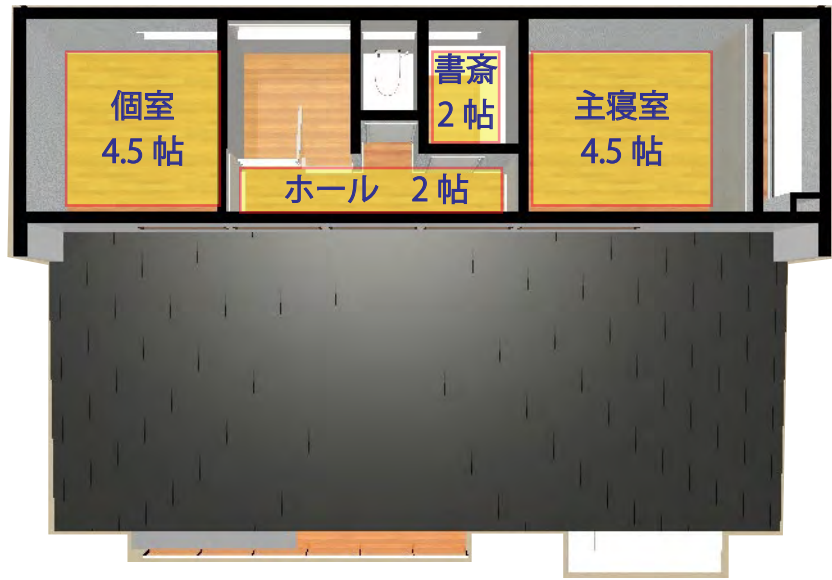
2階床面積 : 9.01 坪 (29.81 m²)

延床面積 : 31.05 坪 (102.68 m²)

1 F



2 F



陽射しの変化と庭を楽しめる家

POINT①

陽射しや眺望を考慮し、土地の特徴を活かしたプラン

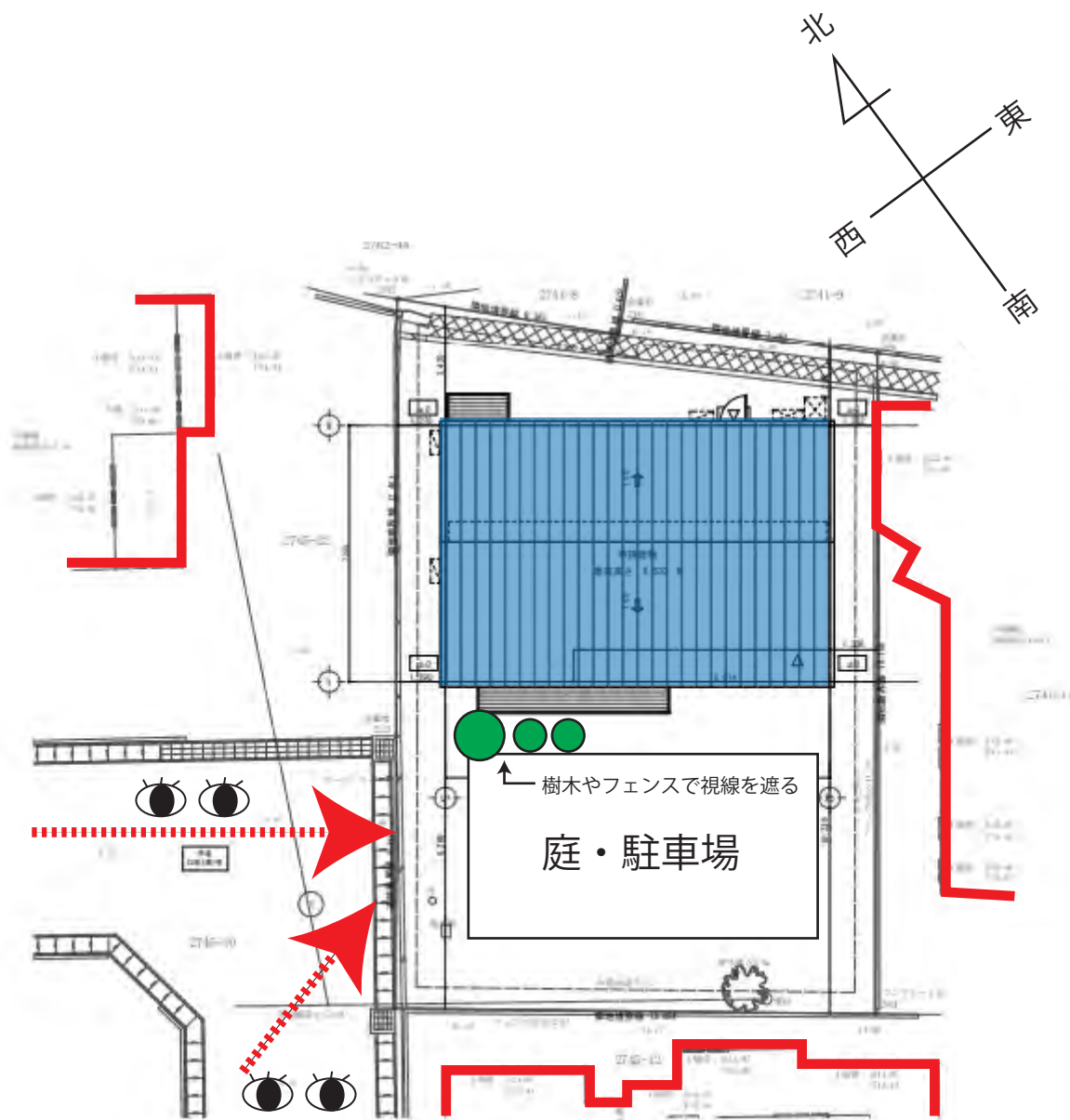
POINT②

自然と人が集い、絆が深まる広がりを持った LDK

POINT③

裏動線も兼ねた回遊性のある家事動線

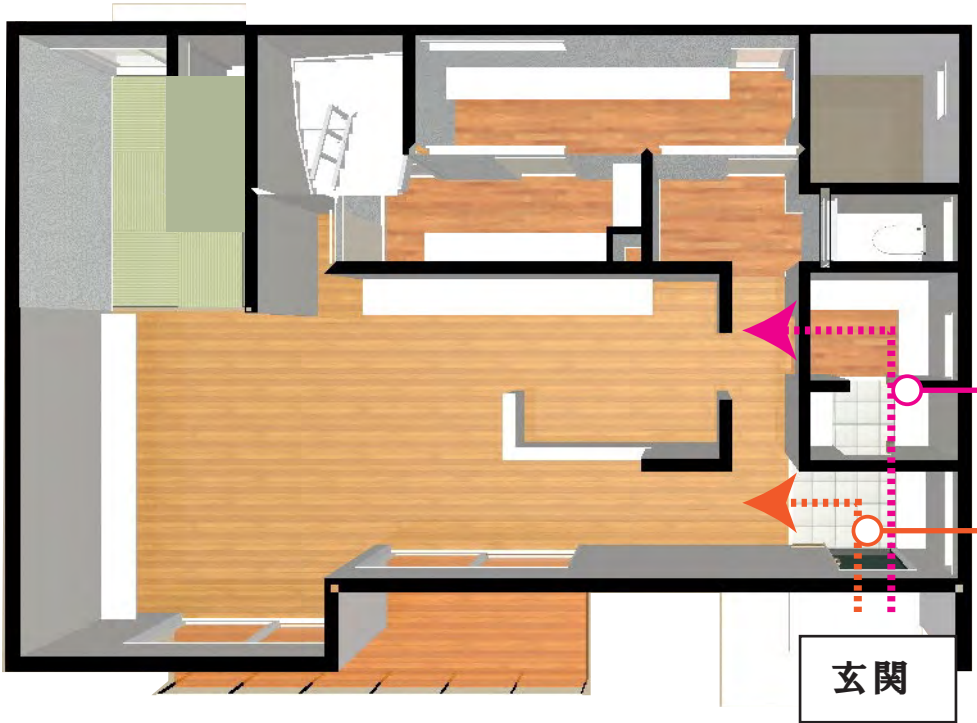
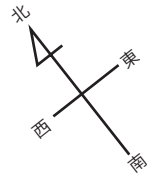
配置計画



隣家の位置、玄関や窓の位置、高さ等も計測します。そのデータをもとに建築家は現地を調査し、視線・風の抜け方・光の入り方、隣家や周辺からの見え方等を総合的に見て、その敷地に合ったベストな設計をします。

POINT

- ①西側・東側は隣家が近く、南側と北側にどう開いていくかがポイント
- ②南側は隣家が1段高い位置にあるので、南からの光をしっかりと取り入れられるよう南側を大きく開いている。南庭+駐車場を計画し南側隣家から建物の距離を離す+外構の樹木やフェンスで南側隣家からの視線をカットする
- ③南側を大きく開いているが、北側も完全に閉じることはせず、一部開放的に使っている(2階)



家族動線

来客動線

玄関

建築家 POINT
動線・空間の広がり

玄関からの動線

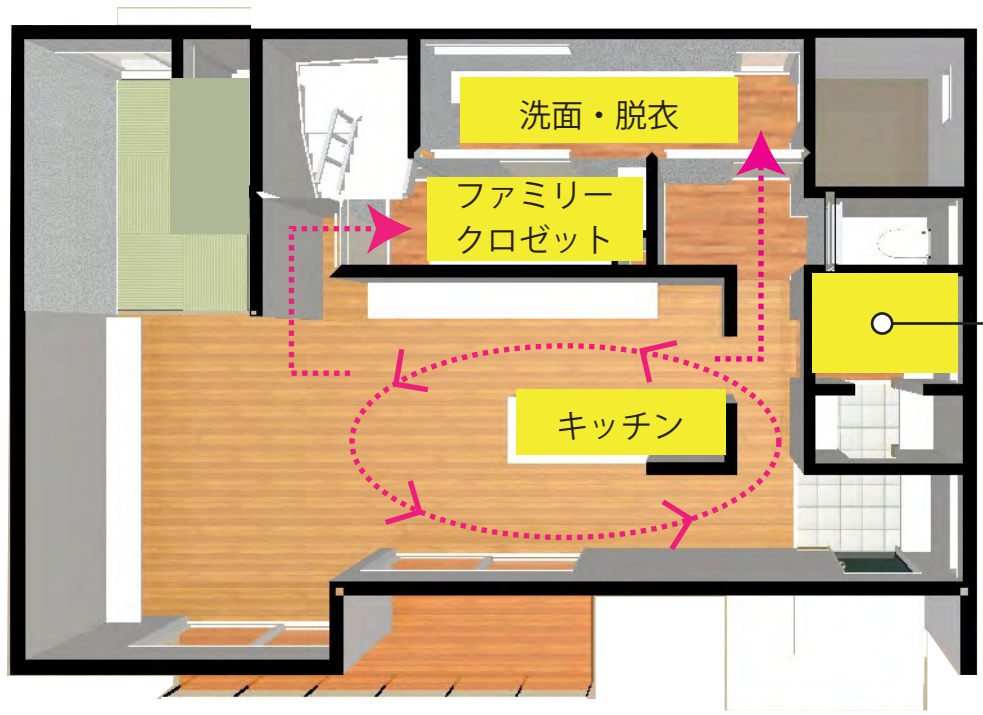
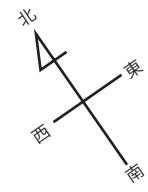


玄関から室内に入る動線が2つ欲しいです。玄関からキッチンまでの距離が近いと嬉しいです。買い物して帰宅したとき楽なように。



ご家族は玄関→シューズクローゼット→キッチンや水回りに近い動線です。
クローゼットは洋服などの収納はもちろん、買い物したものを収納できるように兼用のクローゼットにしました。
帰宅→上着を脱ぐ→収納と、身軽にキッチンに進めます。

来客は玄関→ホールと真っすぐの動線です。
南側の庭を見ながら入ることで、よりLDKの広がり、心地よさを感じることができます。



パントリー兼収納

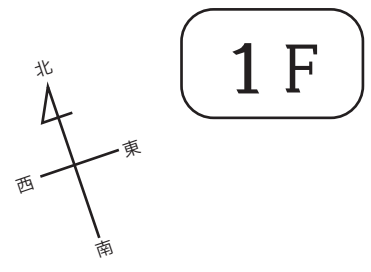
建築家 POINT
要望 + α の設計

キッチン・パントリー



キッチンはぐるぐる回れるようなキッチンが良いです。
パントリーも欲しいですが、箱買いとかはしないです。
使うモノ + 予備くらいです。
大きいモノは 10 キロのお米くらいかな。

ご要望の
☆玄関からキッチンが近い
☆ぐるぐる回れるキッチン
+ 料理だけでない洗濯や片付けなどもしやすいようにキッチンからの水回り動線、クローゼットまでの動線も最短に設計しました。
料理の合間に、他の家事を片付けやすくなります。
パントリーも、ヒアリングした食品類の収納量から考えると他の収納とも兼用したほうが無駄がないと思いますので一括収納を採用しました。



建築家 POINT
要望 + 生活スタイルを反映

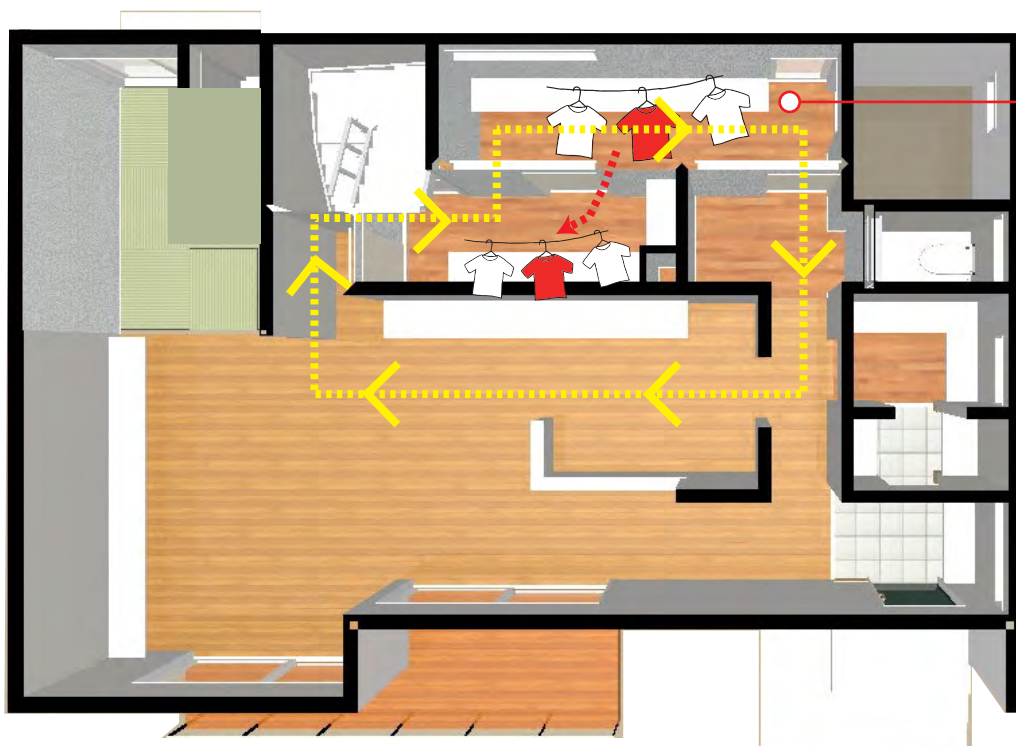
和室



将来（老後）2階にあがらなくなったとして
和室は寝室として使いたいな



まず、和室として創るのか、リビングと繋げて畳スペースとして創るのかで違いがあります。
「和室」として独立させてしまう場合、使う頻度が少なければ無駄なスペースになり勿体ないです。
ご要望のように将来・・・というのはまだ何十年先のことで、その時になってみないと分からないのでリビングの広さや広がり優先するのであれば畳スペースにして、必要であればロールスクリーンで目隠しをする方法が一番合理的で無駄がないかと思います。
T様の場合は今から10年後を考えても、畳スペースでお子さんが遊んだり、ちょっと休憩したり、洗濯物をたたんだりなどそういった用途で使われる事が多いかと思いますので、このように提案させていただきました。



室内干し→ファミリークローゼットに収納と、最短の動線。
+ぐるぐる回れる動線で行き止まりが無く使いやすい。



脱衣・室内干しスペース・ファミリークローゼット

建築家 POINT
暮らしやすさ・使いやすさの提案



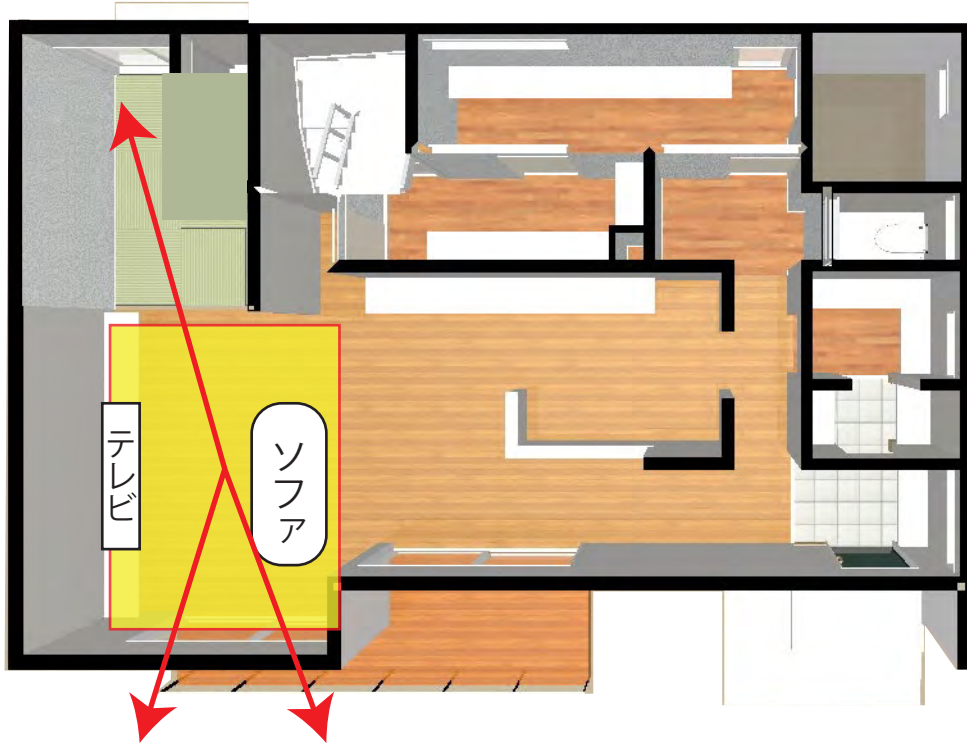
基本的には「外干し派」です。
ただ、雨の日とか真冬とかは室内に干せる場所があると助かります。
衣類はハンガーでそのままかけて収納したいです。
家事に時間を取られたくないので家事が楽になるような動線にしてもらいたいです。



脱衣は室内干しと、脱衣に必要な収納（タオル類や下着など）、洗濯物を畳んだりアイロンをかけたりのスペースも兼ねてます。

他の衣類などは、すぐ隣のファミリークローゼットにハンガーにかけたまま収納できます。

水回りへのアクセスを二方向から可能にし、ぐるぐる回れる動線になってますので、料理中なども他の家事がしやすく、行き止まりがないのでストレスも少ないと思います。



多方向に視線が広がり
空間をより「広く」
感じることができる

リビング

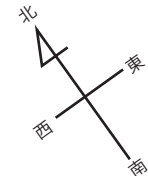


とにかく明るくて、開放的なイメージ。
家の中にいても外を感じられて、なおかつ外の視線は気にならず寛げる空間にしたいです。

建築家 POINT
視線のコントロールで広がりを実現



庭側（南側）に大きく窓を取りました。北側に建物を寄せて南側を大きく開けたことで室内から庭に向かって視線が広がります。「家の中から外を楽しむ」ことができるポイントです。
さらに玄関からリビングまでの距離が約 10m程あり、視線を遮る扉などが無いので実面積よりさらに広く感じます。
玄関からは一番奥にリビングがあるので、玄関からリビングが丸見えという感覚はありません。
視線を気にせず、広がりや家族の気配も感じられるような、寛げる空間になっています。



書斎

寝室・子ども部屋



たまに「籠れる」場所があると嬉しいので、小さくても自分だけの書斎が欲しいです。



寝室と、子ども部屋に関しては時に要望は無いですが、将来子どもにはリビングを通して自室に行ってもらいたいです。



コンパクトでも広がりを感じられるように、視線が外に抜けるような窓配置しています。そうすることで窮屈さを感じず、落ち着ける書斎になります。また、寝室とトイレへのアクセスもしやすい位置にすることで使用しやすく、使いやすい書斎になってくれると思います。



子ども部屋は、必要最低限な大きさにしていますが、南面と北面に窓を配置することで、明るく開放感のある個室になっています。また、階段あがってすぐに配置しますので、1階とのコミュニケーションも取りやすく、気配も感じやすいでしょう。2階部分は1階よりさらに北側に寄せ、南側に全面窓を配置しているので家の中から「空を見上げる」ことができ、とても気持ちの良い空間になっています。

敷地の南面を大きく開けて、庭と駐車場を配置。
室内からは南の庭に向けて視線が拡がり、開放感を得られる。
軒をだすことで夏の直射日光は遮り、冬の光は十分に採り入れられる。

南



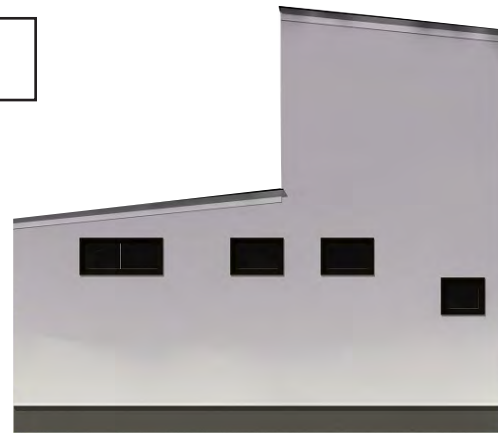
道路に面した西側は、近い位置に隣家もあり、室内側は人が集まるリビングにあたるためプライバシー確保、西日対策としても窓は配置していない。

西



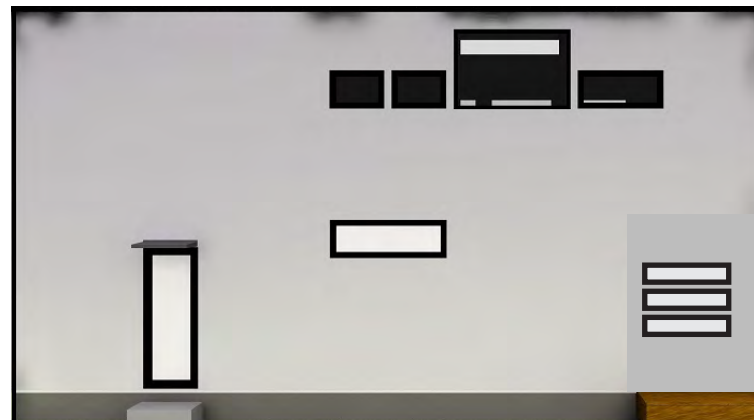
東側は水回りなど、プライバシー性の高い用途の部屋があるため、外からの視線は入らないが、光はしっかり取り入れられるように高い位置に窓を配置している。

東



少し高台になっている北側1階は柔らかな光が入るように、2階は外の景色・空を十分に採り入れられ、かつ外からの視線は入らないような窓位置。

北



荒尾市風配図

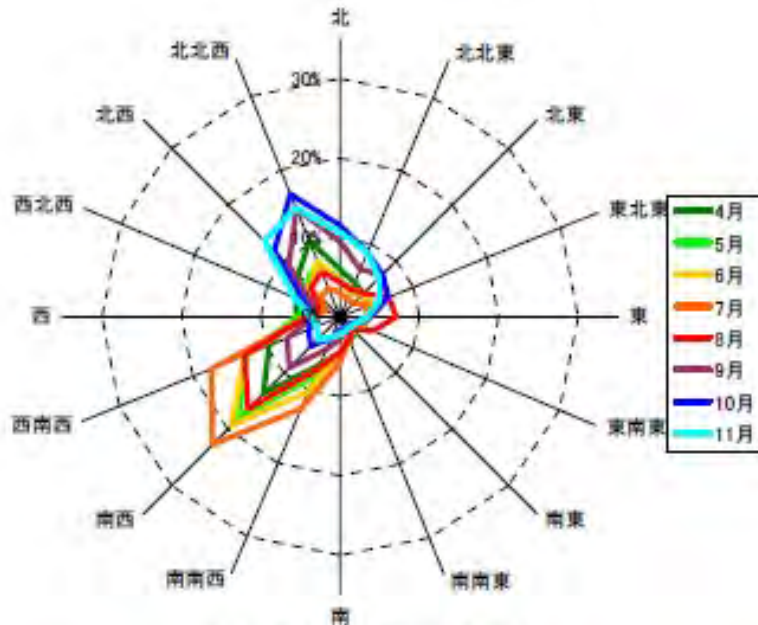


図4a 月別風配図(起居時)

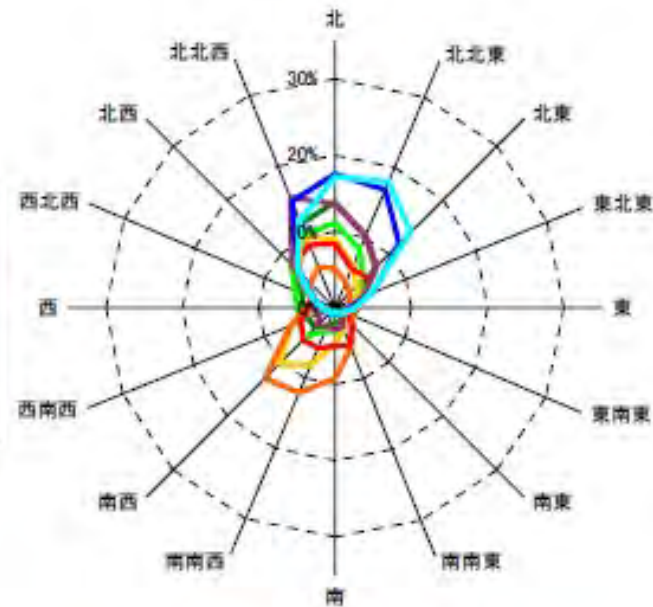


図4b 月別風配図(就寝時)

月毎気象データ数表

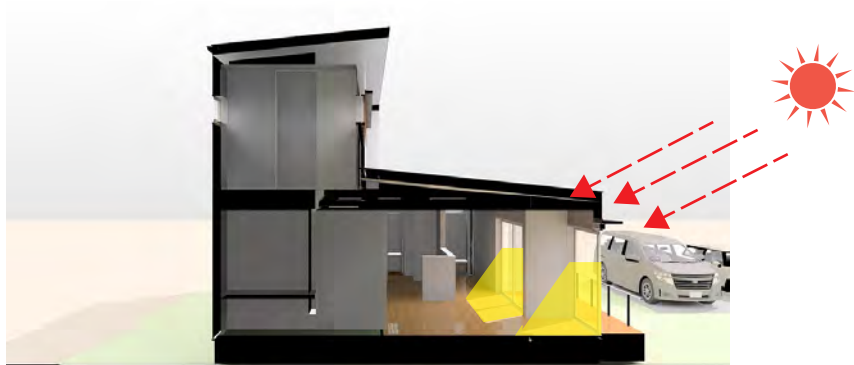
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		
	起居時	就寝時	起居時	就寝時	起居時	就寝時	起居時	就寝時	起居時	就寝時	起居時	就寝時	起居時	就寝時	起居時	就寝時	
平均気温[℃]	17.1	12.4	21.4	16.7	24.5	21.0	28.2	24.9	29.2	25.4	25.6	21.9	20.2	15.8	14.4	10.3	
平均相対湿度[%]	61	79	63	82	72	86	74	87	69	84	68	83	64	82	66	82	
平均風速[m/s]	1.9	1.2	1.8	1.0	1.9	1.2	2.1	1.2	2.1	1.2	1.8	1.1	1.6	1.1	1.5	1.1	
風向	最頻	南西 14%	北 14%	南西 18%	北 11%	南西 19%	南西 10%	南西 23%	南西 13%	南西 16%	北北西 9%	北北西 15%	北北西 16%	北北西 17%	北 18%	北北西 15%	北北東 18%
	次点	北北西 10%	北北西 12%	西南西 13%	北北西 10%	西南西 13%	北北西 10%	西南西 17%	西南西 10%	西南西 13%	北 8%	北 9%	北 14%	北西 12%	北北東 17%	北西 13%	北 17%
	次々点	西南西 10%	北北東 10%	西南西 8%	北北東 8%	西南西 10%	北 9%	西南西 13%	南 9%	西南西 7%	北西 8%	北西 9%	北北東 10%	北 12%	北北西 15%	北 11%	北東 14%

風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

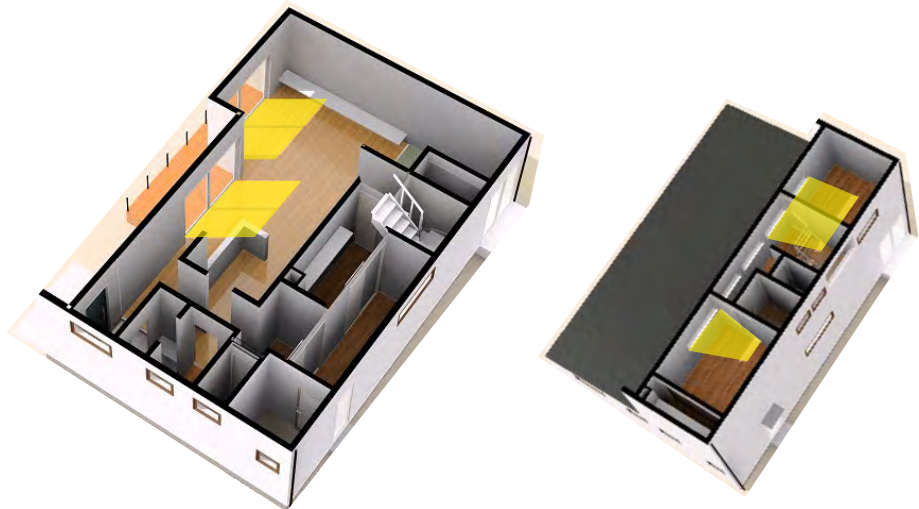
建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

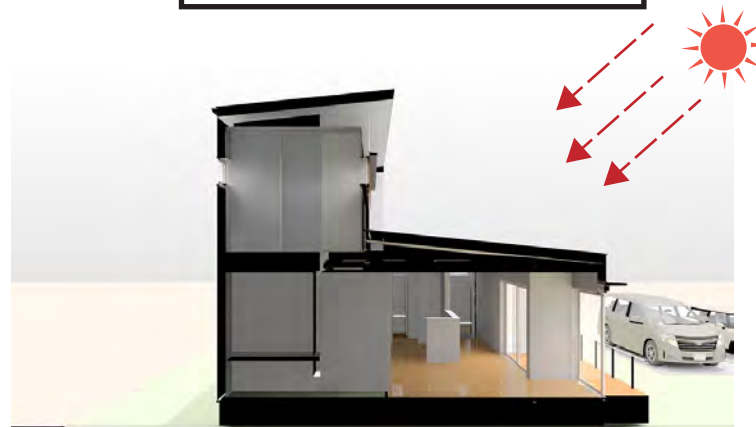
真冬午後12時



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。

